

市民記者にないませんか!?

市民で作る議会だよりの 記者・編集委員を大募集!!



川口市議会知って

市民奮闘議会だよりに発行

議会報を持たない川口市議会に代わり、同市の市民団体「議会基本条例を考える会」(伊田昭三代表)が26日、独自の議会だよりを発行した。議会報告は市民に果たすべき責務と、議会関係者に主体的な発行を促すのが目的という。

会によると、県内40市議会では議会報を出していないのは川口市議会だけ。定例会、臨時会ごとに市の広報紙で議案と結果を伝え、市議会のホームページに掲載しているのが現状だ。

創刊に際し、伊田代表は「三代表制の一方の軒先を借りた結果だけの羅列では、市民との距離は縮まらない」と強調。「市と議会

議会報に代わり情報発信

創刊に際し、伊田代表は「三代表制の一方の軒先を借りた結果だけの羅列では、市民との距離は縮まらない」と強調。「市と議会

が何を話し合い、何を決めているか。市民が知ることは、まちづくりへの参加促進にもつながる」と話す。

A3判二つ折りの4ページ。1面(議会側)に、発行を切望してきたが、見通しが立たないことから発行を決意したと、1面で経緯を説明したうえで、題字の下には、「川口市議会が発行した折に廃刊の予定です」という一文を入れた。

見聞き面では傍聴した質疑の中から課題を抽出。小中学校へのエアコン設置要望や子ども医療費の支給制限問題、慣例の「たらい回し人事」となった正副議長選などを詳報した。最終面は職員給与の

減額議案を取り上げ、議員定数と報酬問題の議論にも触れた。

「次号以降も目立った審議内容を市民の視点から発信していきたい」と、編集委員長の林恒男さん。年4回の定例会ごとに発行し、約2千部を印刷して議員と議会事務局に優先配布するほか、公共施設などに置く計画だ。

(伊藤典俊)

朝日新聞 2013/08/27

「なぜ、市議会だよりがないの?」

川口市民が創刊 発行要望 実現せず

秩父村と川口市だけと、口市で設置が進まないの記事を掲載。2ページ目では、近隣市町村で設置が進む小中学校のエアコン問題を特集。川などを説明した。

市の諸問題の特集

このほか「たらい回し」と批判されている1交代の「正副議長選出」や「市長や市議員の給与減額」などを取り上げている。今後、議会が開催される年4回の発行を予定している。

伊田代表は「議会報告は、これまで市の広報誌での結果報告だけだった。市議会に発行を要望してきたが、実現しないため創刊に踏み切った」と話している。

【橋沢哲雄】

毎日新聞 2013/08/27

議会だよりにないから発行

川口の「自ら情報発信して」市民団体

県内の市議会では唯一議会だよりの出していない川口市議会について、傍聴活動を通して議会改革を訴えている市民団体が自前の「議会だよりの(A4判、4ページ)を創刊した。今後、定例会議の終了後に記事をとめ、年に4回発行する予定。

発行したのは「議会基本条例を考える会」(伊田昭三代表)。2009年6月に発足し「市民に開かれた議会の実現を訴え、情報公開、情報共有などの観点から議会改革を訴えてきた。

代表の伊田さん(68)は「川口では首長が発行する『広報かわくち』で2ページを使っている。市民に分かりやすいのが現状。市民に分かりやすいの発行を求めたい。それが実現したら、われわれの議会だよりがめでたく廃刊します」と話している。

創刊号は2千部発行。「小中学校にエアコン設置を」「税金滞納者の子ども医療費の無料化措置から外す問題」議長就任問題」など4テーマについて、市議会審議の内容をまとめた。

「これらは広報に載っていない。市民に関心の高いものを厳選して掲載した。議会がきちんと情報発信していないことが、市長選挙の低投票率に反映されていると思う」と話している。

(岸鉄夫)

埼玉新聞 2013/08/27



議会基本条例を考える会

(9号 2013.09)